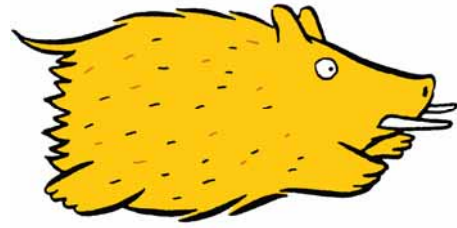




あれ！トマソン隊じゃあ無いのか



三浦砲台編

by うさお

今回も遺跡めぐりです。本来のトマソン探訪は TICA さんがしっかりやってくれているので安心です。町の中の危険なものや、なんだこりゃあってなやつですね。すっかり人任せです。



田辺キミさん

さて本題に入る前に、健ちゃんが横浜市の情報誌、「横濱」を呉れました。はは～ん、どうやら「執筆者の素顔」の自分史だけでは飽き足らず、もう少し自分のルーツを紹介してよってことらしいぞ。この「横濱」誌には懐かしい町として「生麦」が挙げられています。その地元の代表として取り上げられているお婆ちゃんこそが、健ちゃんのお婆ちゃんらしいのだ。この人です。

んん～ん。健ちゃんには似ていないなあ。あんなに濃くないぞ。せっかくですから、お婆ちゃんのお話も参考に載せておきますね。

「明治45年生まれの田辺ミキさんは、九十四歳。生麦で十二代続く家(屋号は「ごん鉄」)に生まれた。」

生まれた家はノリの養殖をやっていました。大森からきた職人もたくさんいたし、兄弟姉妹は十一人もいたから、それは賑やかでした。ノリの仕事は休みなしで、お正月には漁師さんはお休みだったけれど、私は近所の子たちが羽根つきしているのを横目で見ながら働きました。子どもでも海から採ってきたノリのゴミを取ったり、叩いて枠に広げて、日に干す仕事をしました。海に出ない時にも、ノリを広げる枠を作ったり、簾を作る仕事がありました。簾は畑に葦を取りに行って、それを編んで自分たちで作りました。葦を取りに行く荷車を後ろから押したこともあります。



貝殻で白い生麦の河原

(これは以前に書きました神奈川独特の労働で、「おっぺし」と言われてたやつです。うさお注)

昔は井戸水はありましたが、水道がなかった。井戸水は洗い物などに使って、飲み水は花月園の近くまで汲みに行きました。女の子はおはじき、男の子はコマ回しをして遊んでいたけれど、私は水汲みや家の手伝いがあって遊ぶ時間はありませんでした。大人が海に出ている間の留守番や病気だった母の世話も

私の仕事だったから、学校に行けるのは、雨や風が吹いて潮時が悪くて家族が家にいる時だけ。でも、仕事が忙しくなって結局、小学四年生で学校は辞めてしまいました。小さな頃は家を出るとすぐそこが海で、舟に乗って海に出て、芝エビを捕ったり、アサリを掘ったりしました。昔は海がきれいだったから、シジミを養殖していた人もいました。シジミは身が大きかったし、カニやシャコもおいしかったですよ。

終戦直後もこの海でアサリ、蛤、赤貝、平貝、みる貝がたくさん採れました。昭和三十年、四十年くらいまではいい漁場で



街中の道も貝殻で白い



した。その頃もアサリやシジミだけを扱う専門の店もあったし、売りに来る人もいました。軍艦がたくさんきた観艦式の時は、国道の向こうの見晴らしのいい場所まで行って見たものです。生麦からも舟が何艘も出て、太鼓を叩いて賑やかで、とてもきれいでした。

娘時代は花月園の遊園地も賑やかでした。でも、きれいな女の人たちが踊っているとか、音丸さんや淡谷のり子が来ているって聞いただけで私は行ったことはありませんでした。私が小さな頃には、まだちょんまげを結った人が何人かいました。」

健ちゃんのうちは多産系なのね。貴重な風物史の残っている生麦の町です。生麦は昭和(いや、大正か?)を今に残している貴重な町です。町並みそのものは漁師町から徐々に普通の町並みに変わっていています。少し川沿いの裏道に入ると貝殻で真っ白になった径が無数にあります。

代替わりになったときには見事に消失しているでしょうが、ジモッティでないけれどさおは残して欲しいなあ。

昔ながらの間口に、当時はモダンだったろうと思われるトタン張りの外装の家々。トタン張りの戸袋にもいろいろな意匠的な工夫





3

を凝らして、下町風な情緒を醸し出している家並みが随所に見られます。網元さんのお宅かも知れません。

海難事故の無事を祈っているお神社さんや霊験あらたかそうなお寺さんと、この辺りは神社仏閣が住戸数に比して大変多い処です。

「生麦事件」の碑はこの地に欠かせないものですね。麒麟麦酒「ピアレッジ」の入口脇にあります。

意外に小さな祠のような感じで見落としてしまいそうです。



さてここは三浦半島の金田湾に近いところの丘の俯瞰図です。この写真のどこが今回のテーマなのでしょう？

ちょっと判りませんよね。ずいぶんと昔の話ですが、この付近の漁港（金田湾）から釣りに出ており、その行き帰りに円形の砲台跡を見かけた記憶がありました。今回はどうしてもそれを確かめたくて、探しに行くことにしました。ライ隊員が一緒に行きたいと言うので車で行きましたが、この地へは京浜急行で行くというもなかなか乙なものです。



余談ですが、音のトマソンとして、「京浜急行の列車が動き出すとファンファーレがなる！」というのがありますよ。最初にこのファンファーレを聞いたときには誰かの携帯電話かと思いましたが、音があまりにも大きすぎます。吃驚しますよ。

答えは簡単、電車の車両が今までの直流モータから省エネルギーで交流モーターに変わり、インバーターやMGを積んでおり、その直流から交流に変化させる際に生じる音なのでした。

あっ、つままないか？

さて、砲台跡はこの辺かと凡その見当をつけて、畑の中を探して回りましたがそれらしいものは見つかりません。ライ隊員も一生懸命探しました。

野良仕事の方に聞いてみましたが、最近良くそういう人が来るんだよと言われてました。多いんですね、廃墟マニアが。





それでも「そこいら辺りが昔「変電所」があったところだよ。あの丘の上に砲台と格納庫があるよ」と親切に教えてくれました。迷惑そうでしたが・・・。

ここが変電所跡の畑です。今は跡形もありません。農家の方の証言だけです。

崖のところに防空壕なのか、連絡壕なのか貯蔵庫だったのか穴が幾つも開いていました。



一基目の砲台跡



排気口か？通信塔か？

教えてもらったとおりに、農道を大きく回りこんで歩いていくと、漸く目的の砲台のところにたどり着くことが出来ました。

どうやら高射砲の台座のようです。今では不要の長物とばかり、邪魔にされているようで大根やら、菜っ葉のゴミ捨て場になっていました。悲しいなあ。





中はこんな感じ

近くには同時代に作られたと思われる排気口または通信塔のようなものと、砲台の下へ続く通路入口がありました。

「帝国の城塞」によれば、この三崎半島金田地区の砲台跡は4基ほどあったらしいが、現存するのは2基だけらしい。

「明治の時代にこの剣崎砲台（大正13 - 昭和2年，15K2連装x2）が設置され、砲塔砲台座は雨崎と大浦山の中ほどの畑の中にあり、直径2mばかりの円形コンクリート台座が100m離れて2つある。」とあります。



二基目の砲台跡



砲台の下へ続く通路入口

二基目の砲台のほうが原形を留めており、地下通路入口も道路を挟んで反対側にはっきりと残っていました。





ここに探照灯格納庫がある



300mほど歩くとありました、ありました。夏草に覆われていましたが、確かに何やらコンクリートの構造物が建っていました。

Cacco は農作業をされている方の軽自動車が悪魔だから、どけてもらおうかと不満げでしたが、そんな我儘なんて言えない、うさおは。

もう少し丘の小道を辿ってみましょう。

「帝国の城塞」には次のような記述もあります。

「また、その北方の少し高い畑の中に雑草に覆われて、ぽつんと半円状のコンクリート掩灯所(探照灯格納庫)が残っている。」

この掩灯所(探照灯格納庫)を探してみることにしました。

遠方に剣崎灯台が見える







この掩灯所は丸田祥三も取上げていました。図書館で借りた「棄景」の中にもありますが、少し写真を加工してあり、情感が乏しくなり余り感心しませんでした。(生意気な！)

ナチュラルなうさおのほうか、戦争遺跡ばかりで良いと思いますよ。

そしてすっかり戦争遺跡マニアのCaccoは、ずんずん中に入って写真を撮っていました。こんな場所はムカデなんかがいるので、気をつけないと・・・。

ここの裏手に回って見るとそこには通信用のアンテナが立っていました。以前に剣崎灯台を訪れた時に国土交通省「剣崎無線方位信号所」の近くに、コンクリートの戦争遺跡ば





劔崎の正体の判らない遺物



観音崎地下トーチカ



鎌倉披露山公園砲台跡

いものがありましたね。

以前の訪れたことのある三浦半島の近くの戦争遺跡を簡単におさらいしてみたいと思います。興味の無い人にはとても詰まんない代物ですけど。



ライ隊員とお食事した金田湾朝市の風景を付け加えておきます。

「帝国の城塞」：読書リストをご参照ください。いかにもマニヤ向けの廃墟雑誌です。



猿島要塞